

AT フローリング施工上の注意

施工の際には以下の点に十分ご注意の上、施工してください。

■ 施工前の確認事項

- ・基礎のコンクリートや根太、下地合板は十分に乾燥していなければなりません。床下の換気を十分とってください。
- ・多湿な場所で使用の際は床下の防湿処理を施してください。
- ・天気の良いできれば乾燥した日に施工することをおすすめします。やむを得ず湿気の多い日に施工する際は接着剤が乾きにくい
ため速乾性の接着剤をご使用ください。
- ・現場で塗装をする場合は、施工前に行くことをおすすめします。施工後の塗装は塗料によってはフローリングが伸縮する可能性があります。ウレタン塗装など被膜系塗装はフローリングの裏面に捨て塗りを必ず施してください。

■ 下地施工

- ・必ず12mm厚以上の耐水合板をレンガ張りに下貼りし、フローリングを必ず根太上に釘打ちできるよう合板上に墨付けしてください。
- ・床下の湿気が多い場合は0.1mm厚以上の防水シートを根太と合板の間に敷きこんでください。
- ・ピアノなどの重量物を置く場所は、根太や束、大引きを増やすなどの対策を講じてください。

■ 仮並べ

- ・自然のものであるため木目、色調は様々です。施工する前に仮並べすることをおすすめします。並べ方によってイメージが変わりますので色や柄のバランスを確認してください。
- ・フローリングを開梱したまま放置すると反りなどの原因になるため、開梱したその日の内に施工するようお願いします。

■ 貼り込み

- ・一液型ウレタン樹脂系接着剤かエポキシ樹脂系接着剤と釘を必ず併用してしてください。
接着剤と釘を併用することでフローリングと下地合板との隙間をなくします。
- ・接着剤は無垢フローリングに適したものを適量ご使用ください。厚く塗りすぎても少なすぎても接着不良の原因となりますので接着剤メーカーの説明書に従い均一にムラなく塗布してください。その際、サネ部分には接着剤が入らないよう塗布してください。サネ部分に接着剤が入り込むと割れ、床鳴りの原因になるため厳禁です。
- ・木工用ボンドは反りや割れを引き起こす可能性があり不陸や床鳴りの原因になりますので絶対に使用しないでください。
- ・保持力のある接着剤付きステーブルやスクリー釘を300mmピッチで雄実の付け根から材の中央方向へ向かって斜めに下地を通し根太に打ち込みます。ステーブル、スクリー釘は下地合板の下の根太まで届くよう施工してください。釘の頭が出てしまった場合ポンチなどで叩いて打ち込んでください。
- ・フローリングの間は密着させないでください。幅に対して無垢0.3%、複合0.15%程度(参考:名刺約0.25mm、PPバンド約0.5mm)隙間をあけ施工してください。実を強く叩き込みすぎるとフローリングが膨張した際、反りや突き上げまたは不規則な木目に沿ってかかった圧力に耐えられず目割れなどを引き起こす原因になります。壁面は5〜10mm程度のクリアランスを設けて密着せず巾木で隠してください。
- ・はきだし窓、敷居の納めは必ずクリアランスをとりコーキング処理をしてください。

■ 養生

- ・表面保護のため施工後は速やかに細かな砂、ホコリなどのゴミを掃除機でしっかりと取り除き養生シートを壁面に15cm程度立ち上げ、その上に養生板(ダンボールまたはベニヤ)を壁から10cm程度離して置き養生テープで養生板と養生シートを止めてください。
- ・厚みとクッション性のある中芯原紙を特殊強化フィルムで両面貼りしたサンドイッチ構造の養生シートをご使用ください。
- ・養生テープを直接フローリングに貼ることはできません。塗装の剥がれや変色の原因となります。
- ・シートで覆わなかった箇所があると汚れの原因になるほか隙間からあたる日差しでその部分だけが日焼けし変色してしまいますのでご注意ください。

※ブルーシートなど通気性のないものは湿気がこもりフローリングの反り、変色の原因となるため絶対使用しないでください。

養生シートは1ヶ月以内を目安にはがしてください。天気の悪い時期や環境によっては湿気がこもりやすく、反りなどの可能性があるため早めにはがすことをおすすめします。

■ お引渡し前のクリーニング

- ・基本乾拭きをお願いします。特にOIL塗装は水拭きすると湿気による反り、割れ、毛羽立ちなどの原因となるため汚れが目立つ場所は固く絞った雑巾で速やかに拭き取り化学雑巾は絶対に使用せず、乾いた柔らかい布で乾拭きしてください。